

外来診療予定表（12月）

★: 女性の医師 赤字:変更となった診療

診療科		月	火	水	木	金	土
総合診療部 (外科・内科)	午前	★塩田美桜(外科) 第1.4.5 塩田総院長(外科) 第2	大野	大野	鈴木副院長(外科)	鈴木副院長 (炎症性腸疾患専門外来)	—
	午後	小坂(下肢静脈瘤専門外来) 第2.4	—	—	—	—	—
	午前	武田(内科)	—	★渡部(内科) 受付15:30まで	鶴岡(内科)	★大友(内科)	木下(内科) 第1 金谷(内科) 第3
	午後		★渡部(内科) 受付15:30まで		—	—	—
	午前	大木(内科)	—	—	岸本(糖尿病外来) 第3.4	—	大木(内科) 第2.4
	午後		千葉大(内科)			—	大木(内科)
内視鏡 (胃・大腸)	午前	★塩田美桜(胃) 第1.4 塩田総院長(胃) 第2	—	鈴木副院長(胃)	大野(胃)	大木(胃)	—
	午後	★塩田美桜(大腸) 第1.4 塩田総院長(大腸) 第2	千葉大(大腸)	鈴木副院長(大腸)	大野(大腸)	—	
	◎内視鏡検査は事前に診察が必要となります。検査の予約のみをお取りすることはできませんので、予めご了承ください。						
脳神経外科	午前	西澤	—	山岡	山岡 第1.3 青柳 第2.4	青柳	團
整形外科	午前	塩田院長	八木(脊椎・脊髄専門外来)	塩田院長	塩田院長	—	塩田院長 第1.2
	午後		八木(脊椎・脊髄専門外来) 第3	—			—
	午前	—	石井(予約制)	—	—	伊藤	石井(予約制) 第3
	午後			石井(予約制)	石井(予約制)		—
	午前	—	★増淵	—	—	金城	山田 第3 和才(肩外来) 第4 ※午後休診※
	午後					金城 第2.3.4	
肝臓内科	午前	大木	—	椎名(予約制) 第1.2.4	—	—	大木 第2.4
	午後			—		大木	—
循環器内科	午前	亀田総合病院 (交代制)	—	中津 第2.3.4	亀田総合病院 (交代制)	大橋	—
	午後					大橋 第1.3.4	
婦人科	午前	—	遠藤	—	—	★山中	遠藤
	午後					—	—
リハビリ 外来	午前	大木	—	—	宇野 第1.3	—	大木 第2.4
	午後				—	大木	—
脳神経内科	午前	—	片多(予約制)	平田	—	—	—
耳鼻咽喉科	午前	小谷 初診受付16:00まで	—	—	★スミス 第1.3	河合 初診受付11:00まで	—
	午後		鈴木		★スミス 第3	—	
泌尿器科	午前	—	—	—	★谷内	—	猪俣 第2 勝 第3
	午後						—

◎診療予定は変更となる場合があります。院内『お知らせコーナー』や『ホームページ』または、電話にてご確認ください。

◎当日のご予約はお取りすることができません。必ず前日までにお取りください。 ◎当日、急遽休診になる場合がありますので、ご了承ください。

◎保険証は毎月確認させていただきますのでお持ちください。また、お薬手帳もございましたら必ずお持ちください。

◎外来受診に関する詳しい案内は『ホームページ』よりご確認ください。

受付時間:(月～金)8:30～11:30/13:30～16:30(土)8:30～11:30

予約専用ダイヤル:0475-35-0002(月～金)8:30～17:00

※お電話をおかけの際、診察券をお持ちの方はお手元にご用意ください。 ※当日予約なしで受診希望の際はお電話にてご確認ください。

医療法人SHIODA塩田記念病院広報誌

塩田記念病院だより

Vol.149 2025年12月号

病気の豆知識 ～片頭痛の前兆～

国語の教科書にも登場する文豪で、現在では文学賞にもその名を遺す芥川龍之介は、片頭痛に苦しんでいたといわれています。芥川の遺稿『歯車』には、次のような記述があります。

「僕の視野のうちに妙なものを見つけ出した。妙なものを？—と云ふのは絶えずまはつてゐる半透明の歯車だつた。僕はかう云ふ経験を前にも何度か持ち合せてゐた。歯車は次第に数を殖やし、半ば僕の視野を塞いでしまふ、が、それも長いことではない、暫らくの後には消え失せる代りに今度は頭痛を感じはじめる、—それはいつも同じことだつた。」

片頭痛の症状は人によってさまざまですが、大きく分けると「前兆のある片頭痛」と「前兆のない片頭痛」があります。詳細はここでは省きますが、前兆のある片頭痛の診断基準の一つに、視覚・感覚・網膜症状などの前兆が現れる、というものがあります。芥川が『歯車』に記した体験は、まさに前兆を伴う片頭痛の典型的な経過と一致しています。

時代が違っても、病や痛み之苦しむ点は変わらないのだと思うと、私のような小市民はつい親近感すら覚えてしまいます。しかし、もちろん片頭痛は笑い事ではありません。日常生活に支障をきたすほどの頭痛や嘔吐に悩まされ、仕事どころではなくなるという方も少なくないのです。現代においても片頭痛のメカニズムは完全には解明されていませんが、症状を改善する方法は徐々に確立されてきています。また、頭痛とひと口に言っても、すべてが片頭痛によるものとは限らず、別の原因が潜んでいる可能性もあります。頭痛に悩んでいる方、ご自身の症状が気になっている方は、ぜひ一度受診していただければと思います。



脳神経外科 医師
西澤 祐

■年末年始休診のご案内

12月30日(火)～翌年1月3日(土)は休診とさせていただきます。

1月5日(月)からは通常通りの診療となります。

12月、1月は大変混雑が予想されるため、患者さんは事前に診療予約をお取りいただきますようご協力をお願いいたします。また、年末年始の休診期間中に服用されているお薬が切れることがないように必ず残薬をご確認ください。ご予約希望の際は、診察券をお手元にご用意の上、下記へお電話ください。

予約専用ダイヤル:0475-35-0002

受付時間:月～金(祝日除く) 8:30～17:00

当日のご予約は承ることができませんのでご了承ください。

※日曜・休日当番医は、中央消防指揮情報係(0475-24-0119)または、長生郡市広域市町村圏組合ホームページにてご確認ください。



広報企画室発行 Tel:0475-35-0099 Fax:0475-35-0098

〒297-0203 千葉県長生郡長柄町国府里550-1 塩田記念病院ホームページQRコード



■広域災害医療救護所訓練実施のご報告

当院は、長生郡市において大規模災害が発生した際の、広域災害医療救護所となっております。
11月8日(土)に長生郡市行政職員を交えて、院内災害対策本部立ち上げから傷病者受け入れまでの流れの訓練を行いました。

地域の皆様も、日頃からできることとして飲料・食料の備蓄、非常用持ち出しバッグの準備、ご家族同士の安否確認方法、避難経路・避難所の確認など災害に備えた準備をしていただければと思います。

※災害救護所は、避難所ではないのでご注意ください。



駐車場に開設した救護所テント



救護所テント内での模擬診察



院内での模擬診察

参考資料:首相官邸 災害が起きる前にできること <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html>

医療公開講座開催のお知らせ

12月13日(土)に行う医療公開講座の申し込み受付を開始しました。

今回は、肝臓内科の医師2名による講演となります。

事前申し込みになりますので、参加をご希望の方は下記にあります番号へお電話ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第1部 講師

前・順天堂大学大学院医学研究科

消化器画像診断・治療学教授 **椎名 秀一朗** 医師



「肝がんを切らずに治すラジオ波治療・マイクロ波治療」

第2部 講師

サイバーナイフセンター部長・肝臓内科部長

大木 隆正 医師



「様々ながんを切らずに治すサイバーナイフ治療」

【日 時】 令和7年12月13日(土) 14:00～15:30 (受付開始)13:30～

【会 場】 塩田記念病院1階ロビー

【申し込み】 0475-35-0031(9:00～17:00 ※日・祝を除く)
※定員60名 座席指定 順番はお申込み順となります。

TOPIC

～薬が体の外に出ていくまで～

薬がどのように体の外に排泄されるかご存じでしょうか？

薬を飲む時間やどのくらいで効いてくるか、といった事は勿論重要ですが薬が効いた後の事も同様に重要です。きちんと排泄されなければ副作用の原因になってしまうからです。

薬を排泄する方法

薬を体の外に排泄する為に重要となるのが主に肝臓と腎臓です。肝臓は薬を排泄しやすくするように薬の構造を変化させます(代謝と言います)。

元々体の外に排泄されやすい構造の薬は腎臓でそのまま排泄されます。

薬の排泄に影響を与える原因と対策

影響を与える原因になりやすいものを2つ紹介します。

1つ目は他の薬や食べ物の飲み合わせによるものです。例えばワーファリンという薬は飲み合わせが問題となる薬が多く死亡事故も報告されており注意が必要です。複数の病院で薬を処方されている方はお薬手帳を医師や薬剤師にチェックしてもらうことで危険な飲み合わせを無くしましょう。

2つ目は病気や加齢により肝臓や腎臓の働きが衰える事です。睡眠薬のマイスリーは肝臓で代謝されるのですが、ご高齢の方では効きすぎてしまう可能性があり、ふらつきや転倒の原因となります。クラビットという抗生剤は腎機能に応じて投与量を調整する必要があります。

昔から服用している薬でも年齢を重ねる事で副作用の原因となる可能性もあるので、最近体調が優れない、体がだるい等思い当たる症状がある場合は医師や薬剤師にご相談下さい。

病院・薬局へ行くときは必ずお薬手帳をお持ち下さい。

診察時や調剤薬局で薬をもらうときにお薬手帳を提出すると

・複数診療科を受診した場合でも、多剤・重複投薬や相互作用が防止される。

・薬の副作用や期待される効果の継続的な確認を受けられる。

・在宅で療養する方も、行き届いた薬学的管理を受けられる。

等のメリットがあります。



薬をもらう調剤薬局を一箇所にとすると、過去の服薬情報がわかる薬剤師が相談にのってくれ、かかりつけ薬剤師からの丁寧な説明により、薬への理解が深まり、飲み忘れ、飲み残しが防止されます。

また、お薬手帳は、薬を服用されている患者様にとって重要な情報になります。

お薬の情報だけでなく、アレルギーの情報(例えば卵アレルギーとか)、副作用歴なども記載しておけば、災害時などでも安心です。

ご不明な点がありましたら、お気軽に薬剤師までご相談下さい。

薬剤科 薬剤師 小川雄大

薬剤科長 薬剤師 吉野正康



栄養士の独り言

紅葉を愛でる間もなく、冷たい風が冬を連れてきてしまいました。今年も秋も早足で少し寂しくもありました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年の栄養士の独り言はこれまでとは趣をかえてお届けしてまいりました。楽しんでいただけましたでしょうか。調理実習レポートなども取り入れたり、皆様に食の楽しさもお届けできていたら幸いです。

そして来年はどんな独り言になりますでしょうか。素敵な企画をご準備しておりますのでご期待下さい。

お風邪など召されませんよう良いお年をお迎えくださいませ。

来年もお楽しみに。 栄養科 管理栄養士 戸矢静華